

# 至誠の会 レポート 02 vol.02

## 市民主体の“まちづくり”が 遂に本格始動!!

前橋ビジョンを掲げ、活動の花が咲き誇るまちへ



去る8月3日、ヤマダグリーンドーム前橋で前橋ビジョン発表会が開催されました。4,000人の聴衆を前に、民間と行政が一体となって前橋市の活性化を目指す指針“前橋ビジョン”として12の新プロジェクトが発表されました。

ビジョン策定の中心となったジェイアイエヌの田中仁社長、前橋出身のコピーライター糸井重里さん、山本龍前橋市長の3名によるトークセッションが行われ、熱い議論が交わされました。

『いいものが育つまち』という前橋の特徴を分析したビジョンを糸井さんが“めぶく。”というコピーで表現。田中社長も「ビジョンが行政の価値として据えられればしっかりと根付いていくはず」とその期待を表しました。  
(※詳細は後述)

### ～前橋ビジョン発表に対して～ 山本龍 前橋市長からのメッセージ

市民主体のまちづくりが本格的にスタートしました。エネルギーに満ちあふれた市民が最前線で輝けるよう、前橋市も全力でバックアップしていきます。同時に、民間の視点により、行政には考えつかない新たな前橋の表情が“めぶく。”のではないかと、その可能性にとても期待しています。

自治体にとって、民間の斬新なアイデアでその付加価値を高めつつ、行政が暮らしの基礎固め(医療、教育、社会保障など)に力を入れる。これは、理想の自治モデルだと考えています。市民の皆様が主体的・積極的にまちづくりへ参画いただけるからこそ、前橋市は行政でしか立ち入ることのできない生活の本質に関わる問題に全力を挙げて取り組むことが出来るのです。

防災対策や貧困問題など、課題や社会問題が山積する中、“官民協働のまちづくり”は必ずや前橋に大きなメリットを生み出すはずです。“生き生きと輝く市民を、行政がそっとサポートする”このような相互関係を維持することが、前橋市の継続的な発展に必要なことではないでしょうか。前橋という大地にたくさんの種が芽吹くように、今後とも、皆様の力をお貸しください。

## 【中心市街地の再開発】“前橋”に投資を希望する企業が増大

長きにわたり、中心市街地（JR前橋駅から県民会館まで）の再開発が膠着状態でしたが、中心市街地総合再生計画を国土交通省に申請し、当該地域における再開発事業を行う民間への支援を行ってきた結果、再起動へ向けて変わり始めました。



放置されていた旧協栄生命ビルの解体(本町5差路)



尚美幼稚園の隣にある古いアパート2棟の解体(広瀬川)



住友不動産のマンション計画(広瀬川北)



ホテル拡充による  
ビジネスマン対策  
(千代田町)

他にも、前橋駅前の駐車場、サイクルステーション、白井屋旅館跡地へのホテル建設、街中に計画中のシェアハウスへの転用…などなど、様々な計画が動いています。全て民間事業者による再開発です。それはつまり、前橋市に投資する価値があることを証明しているのです。

街が生まれ変わります。人が住み、暮らし、集える中心市街地へ向けて再生するための一歩です。

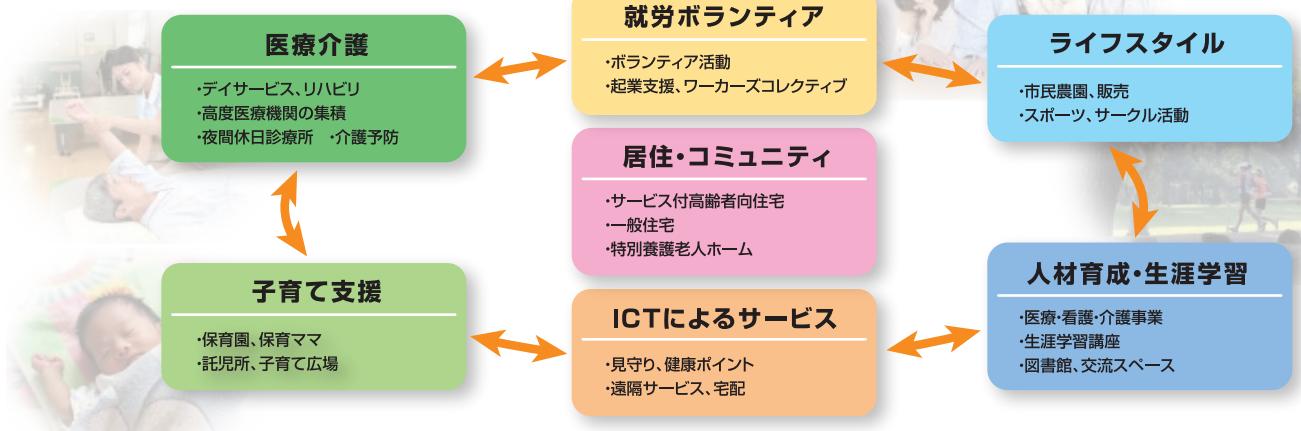
## 【前橋版CCRCの推進】地方創生のシンボル事業として期待

CCRC(Continuing Care Retirement Community)とは、高齢者が健康なときから暮らし、医療や介護が必要になつても、ずっと住み続けられるコミュニティのことです。国は、東京圏の高齢者が、希望に応じて地方に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指すことで、地方における人口減少問題の改善、新たな雇用創出など地域活性化が期待されるとしています。

本市では、地方創生を進めるシンボル事業の一つとして「前橋版CCRC構想」を掲げています。前橋版CCRCは、「シニアはコストではなく担い手」、「シニアの流入が若者の流出を抑制する」、など逆転の発想で、人口減少のピンチをチャンスに変えていきます。

8月末には、民間の有識者等から構成する「前橋版CCRC構想推進協議会」が発足しました。先駆的モデル事業として、前橋赤十字病院跡地（朝日町）で展開する「日赤跡地CCRC」の年内の事業予定者公募に向けて歩みを進めています。（※図は次ページ参照）

## 前橋版CCRCで提供する機能イメージ



## 【新たな道の駅の整備】 民間事業者等との対話を経て、年内に事業者公募へ

平成28年度の上武道路開通に伴い、新たな人の流れを創出するため、本市の魅力や地域資源の発信拠点となる「道の駅」の整備に向けて準備を進めています。

東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、本市の新たな広告塔として認知度向上に資するとともに、赤城南麓の自然や地域資源を活かした「ここにしかないモノ」や「ここでしか体験できないコト」を提供します。

利用者のサービス向上や地域経済の活性化を図るため、整備から運営に至るまでを官民連携で取り組むこととしています。今後、民間事業者等との対話により、参画の可能性や条件等を調査した後に、年内の事業予定者公募に向けて歩みを進めていきます。



道の駅 イメージ図

## 新宿駅における北関東4市合同物産フェア開催

中核都市である前橋市、高崎市、水戸市、宇都宮市は、北関東圏域全体の魅力や自立性・存在感を高めることを目的に、平成26年度に北関東中核都市連携会議を設立しました。

以降、定期的に市長会議を開催しながら、様々な共同観光PR事業を実施しております。このたび、前橋市の企画事業として、首都圏における物産フェア「ランドネきたかんマルシェ」をJR新宿駅西口において初開催しました。(東京進出第1弾事業)。

会場には、朝採りの新鮮野菜や旬の果物、北関東で愛される地酒や加工食品など多数の土産品が並び、前橋豚肉料理、高崎パスタ、上州名物焼きまんじゅう、宇都宮餃子、水戸納豆などのご当地グルメが振る舞われ、大盛況でした。今後も都市連携を深めつつ、北関東の魅力を力強く発信できるよう努めてまいります。

日 時： 平成28年9月18日(日)～20日(火)の3日間

会 場： 新宿駅西口広場イベントコーナー

出店数： 43店(4市合計、うち前橋市は12店舗)



# 市内のニュース

## 前橋ビジョン発表会

CITY NEWS

前橋市と眼鏡チェーンJINSを展開する田中仁社長は、2014年からビジョンの策定を進めて参りました。ブランドコンサルティングを手掛ける海外企業に前橋市の魅力についての調査を実施。同社は前橋市を「良いものが育つまち」と分析しました。

この結果を受けて将来の方向性を『めぶく。』とうキーワードで表現した糸井さん。「地方都市との差別化が難しい現況の中、それでも何か変わろうという姿勢に息吹を感じた」と感想を述べ、故郷の奮起を促しました。

ビジョンをもとにした具体的なプロジェクトとして、街中の老舗ホテルをデザインホテルに蘇らせる計画や、海外の人気パスタ店国内第1号店舗を前橋市内に開業する計画、ミシュランで星を獲得した実力派シェフが前橋の豚肉を使ったとんかつ店を開業する計画などあらゆる分野から12のプロジェクトが発表されました。

### 活性化へ向けた12のプロジェクト

- ・日本初上陸!手打ちパスタ店「GRASSA」
- ・街中リバーフェス in 広瀬川プロジェクト
- ・ホテル白井屋をデザインホテルに改修
- ・若者に夢のある新しい農業のかたち
- ・前橋銘菓「和む和菓子づくりに挑戦」
- ・歩いて健康プロジェクト
- ・前橋の豚を使った「とんかつ料理」
- ・カフェプロジェクト（まちなかのコミュニティハブをつくる）
- ・都市再生計画（前橋の顔を再生する）
- ・教育プロジェクト（魅力ある教育がまちに人を呼び込む）
- ・太陽の会（協力企業が純利益の1%を出資してまちづくり）
- ・風の会（ビジョンに賛同する市民有志の会）



また、田中社長を中心となり、前橋市内に拠点を置く企業17社で『太陽の会』を発足したことも発表されました。所属する企業は、毎年純利益の1%（最低額100万円）を太陽の会に集め、そのお金はまちの活性化に投資されます。

ビジネスリーダーが集う太陽の会と行政が連携しながら、前橋の資産となるモノ・コトなど様々な“芽”を育てることで、世界や次世代に誇れる独自のまちづくりを導くことを目的としています。行政主導から民間主導のまちづくりへの動きが加速したことに対し、山本市長も積極的に応援していくことを表明しています。

山本龍 政党支部活動支援団体

### 「至誠の会」入会のお願い

課題が山積する前橋市政に政治生命をかけて取り組むという山本市長の政治活動を側面から支援しております。本趣旨にご賛同頂ける皆様に、ぜひご入会賜りたくご案内申し上げます。

会費：月額 3,000 円(年額 36,000 円)  
詳細は後援会事務局までお問い合わせ下さい。

山本龍後援会事務所

〒371-0022

前橋市千代田町2丁目7-19 ユーアイ井上ビル2階

TEL : 027-219-1005 FAX : 027-219-1006

HP : <http://www.yamaryu.net/>